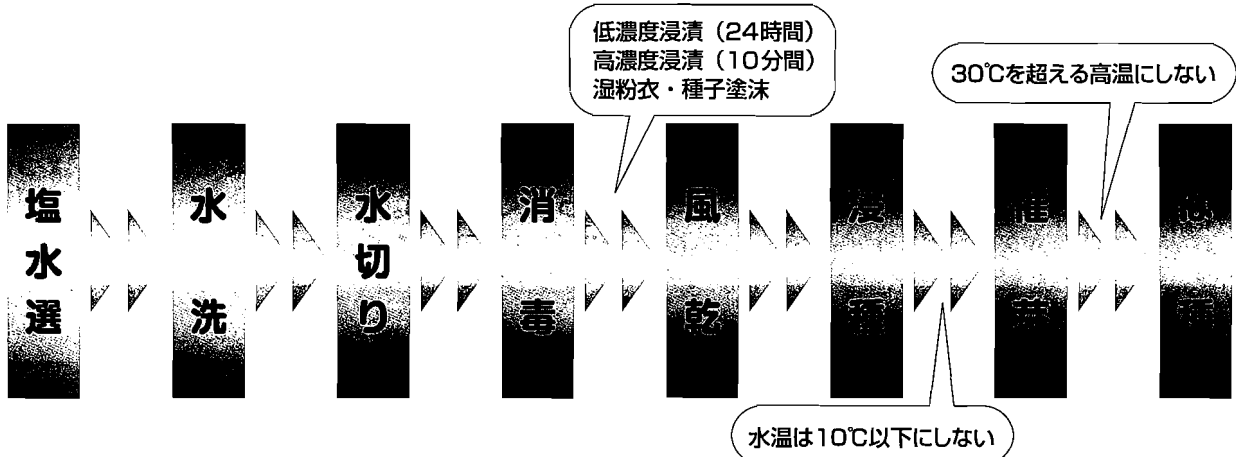


水稻種子の「は種」にあたって

《平成23年は種用》

健苗の育成により、初期生育の促進と良質茎の早期確保を図りましょう！

- 育苗作業にあたっては、裏面の「水稻育苗作業のポイント」に留意するとともに、地域性を考慮し、適期田植えに向けて適切な作業計画を立てましょう。



種子の品質について

- 「**㊦**(85)種子」「**㊧**種子」は、正種子との整粒歩合差はありますが、全て発芽試験をクリア(発芽率90%以上)し、主要農作物種子法に基づく生産物審査に合格しています。

種苗の適正流通について

「新潟米」ブランドを守るため、県育成品種は種子の適正な流通に努めるよう、ご理解とご協力をお願いします。

- 新潟県の育成者権が保護されている品種の利用は、新潟県内の生産者による県内作付けに限定しています。

該当5品種

- コシヒカリBL ●こしいぶき ●ゆきん子舞
- なごりゆき ●越淡麗

- 特に、コシヒカリBL種子については、
 - (1)県外への流出防止を徹底するため、他者への再譲渡を禁止しています。
(やむを得ず再譲渡する場合は、種子を購入したJAまたは集荷業者へ、事前に連絡してください。)
 - (2)育苗した苗を譲渡する場合は、必ず、苗の購入者が新潟県内で作付けし、かつ、再譲渡しないことを確認してください。

水稲育苗作業のポイント

◎平成22年産種子は、例年に比べても特に休眠が深いと推定されます。

発芽揃いの良好な苗を確保するため、今年は特に以下の浸種や催芽の適切な作業を徹底しましょう。

塩水選

- より充実した籾を選別するために、塩水選を行います。
- 溶液の中に籾を入れる際は、籾についた気泡を落とすため、棒などでよく攪拌しましょう。

区分	比重	水10ℓ当たりの食塩の量	水10ℓ当たりの籾の量
うるち種	1.13	1.9kg	2.5kg
もち種	1.08	1.1kg	1.4kg

注) 溶液の比重は比重計で確認する。

種子消毒

- 消毒にあたっては、薬剤の使用法（時間・薬量等）をよく確認のうえ、作業を行います。
- 温湯消毒は、処理温度や処理時間を守り、作業を行ってください。
(塩水選後に処理する場合には、必ず十分乾燥させてから処理してください)

浸種

- 必ず水道水や井戸水などの清水を用い、水量は種子籾容量の2倍程度にしましょう。
(種子籾1kgに対して約3.5ℓの割合)
- 化学農薬で種子消毒を行った場合、効果を高めるため、前半の4日間は水を取り替えないようにしましょう。
その後、浸種時の酸欠を防ぐため必ず2～3回水を更新しましょう。
- 温湯消毒の場合は、こまめな水更新を行います。
- 十分に吸水した籾は、籾殻の色が透き通った“アメ色”になります。
- 発芽揃いを良くするため、水温は浸種開始時から10～15℃を確保し、積算温度100℃を目安とします。

催芽

- 温度は30℃を超えると、細菌性病害が発生しやすくなるので注意しましょう。日数は1～2日を目安としましょう。
- 催芽終了の発芽状態は鳩胸程度とし、発芽率が80%以上となるよう日数を調整しましょう。
- 「コシヒカリ」「五百万石」などの発芽しにくい品種は、催芽不足にならないように注意し、必ず発芽状態を確認してから催芽を終了しましょう。



は種

- 薄まき、均一は種を心がけましょう。
- は種する前に1箱当たりのは種量を確認して作業しましょう。
- 作業が長時間にわたる時は、種子籾の乾燥に伴っては種量が増加傾向になるため、時々確認しましょう。

〈は種量の目安〉

苗の種類	1箱当たりは種量	
	乾籾	浸種籾
稚苗	130～140g	160～175g
中苗	80～100g	100～120g